



「おはよう！ 元気！」
「おはよう！ 元気！」

片耳豚
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

「片耳豚」
「ふれぜん」

valkyrja of the battlefield
the third after it becomes slave
valkyrja follow you
It is amazing!

You say what?

片耳豚
ふれぜん

セリリア
の
女隷あくり
みしよん



「淫務! 審問!」 アザト

専任慰問——

上級将校によって指名された士官は、
与えられた期間を用い、
その身の総てを捧げる——!

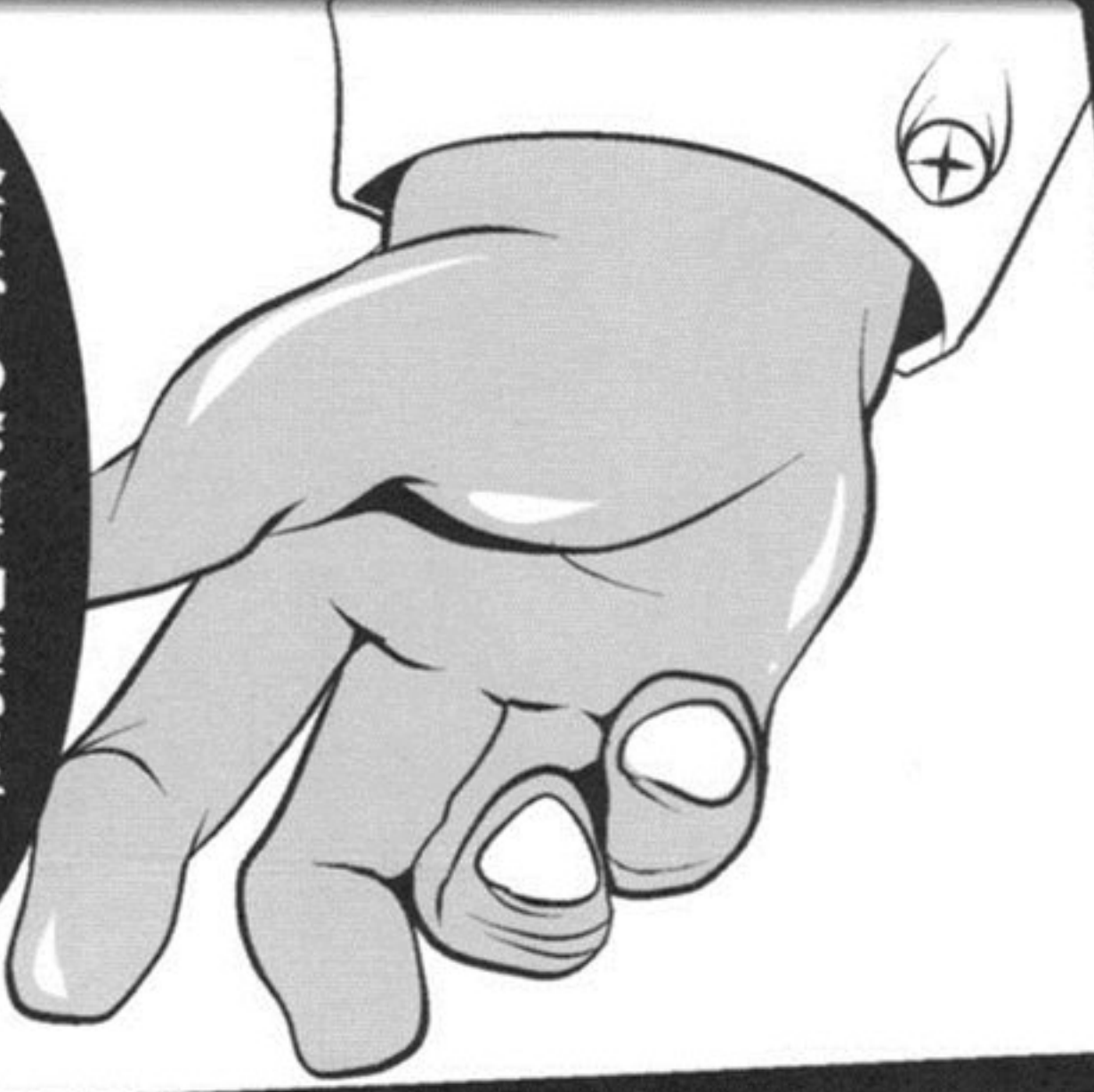
これによりセルベリアは、
軍命によって任務を強制され、
醜悪な上官へとその身体を
差し出すことを余儀なくされる。

奉仕とは名ばかりの淫務。
セルベリアは昼夜を問わず弄られ、
淫執な責めじよがり鳴かされていく。

熟れきった肉体をさらに開発され、
囚われた戦乙女の屈服調教は終わらない。

皆様本日はよくぞ
お越し下さいました

久方ぶりの会合で御座います
本日は私もおきの一品を
ご用意させていただきました



なるほどこれは……
脚が自慢したがるのも
無理はない

ほおお……

噂には聞いていたが……

カツ

カツ

ご紹介いたします
本日のために丹念に磨き上げた
その身にて本会合の任に当たります

さあ大佐——
皆様に挨拶なさい

はっ……

フル

フル

セルベリア・プレスです……
ほ——本日は
御主人様の要請により
着任いたしました……

皆様の会合が円滑に進むよう
ぜ……全力で任務に
あたらせていただきます……

目隠しを付けられ引き込まれたのは
下卑た息遣いと淫蕩な空気に支配された
地下の密室だった——

政府の高官や特権階級の住人——
そんな人種が集う秘密裏の会合
私の“所有者”が開いたその席に
私は淫靡な衣装をまとわせられ
——差し向けられた

いやはやしかしななんとも
実に食欲をそそられる
メインディッシュですな

そうでしょうとも……昼夜を問わず
ここ最近も私ばかりつきりて
味わいを仕込みを続けましたからな

そうらまずは——
自身の魅力をしつかりと
来賓のお客様に
説明せねばならんぞ？

か——閣下っ
お戯れは部屋に戻ってから

何を言っておる
メインが自ら動かんと
会合が滞ってしまうじゃないか

そ——そんな……っ
まさかこの場ではじめ
あ——！

おはっ



聞き分けのないことを
言つてはいけないよ大佐



あつ—しか—
しかしいつ!
こんな人—おわつ!
そこつ—そこはあああ!

任務を言われたとおりに
こなすことが軍人の美徳では
なかつたかな?



そらそら大佐
早く素直になりたまえ
それともいつものように
皆の前で悶え鳴いてみるかね?



ああ—ひつ!
そんなどう—か—つ!

その指が近付くだけで
抵抗の意志が折られそうに
いや……実際には
幾度と無く直接へし折られ
あらゆる矜持を屈服させられた

この数日間ですっかり覚えこまれた
男の指技はまさに悪魔的だった—



特にあそこに座っている男などは今直ぐにでも私の代わりに大佐のケツ穴にむしやぶりこうとしとるなあ.....

ではこちらなら
素直になつてくれるだろうか

視線——感じるう

あひっ——それ……その弄り方あ

よせ……見せるな……
私を溶けさせる体の
弄り方なんてえ……

そうだよ……君がこの屋敷に来た日に
見つけた——セルベリアを乳首だけで
ドロドロにする弄り方だ

それとも……今日の日こそなえて
君を磨き上げるために行つたアレを
次の会合があるまでずっと
続けてみようかね？

そう……そんな——なうああ……
アレはもうしないつてえ——
クチュクチュやめ——乳首もおわつ！

しかし君が素直にならないなら
仕方あるまい……

アレ——特殊な薬剤が手に入ったといつて
この会合前に行われた浴室での
淫らな行為——それは私が泣きながら
どうかもう許してくれと懇願した
——悪夢だつた

磨き上げる——そう言つて男は
奇妙な薬を私の体に直接塗り込め始めた

いつものように——男の愛撫と指技によつて
私の体が徐々に火照りはじめる

ネチネチと蘇く指で追い詰められ
快感を極めさせられた瞬間にそれは起こつた

絶頂感が——引いてはくれなかつたのだ
強烈な体験の感覚を持続させる溶薬
だということの後で知つたが
それから先——入浴はまさに悪夢だつた

逃げようにも体が思うように
動かない私に男は
丁寧に——それこそ全身
塗り残しがないように執拗に
薬まみれの手で私の体を弄んだ

絶頂の激感に翻弄されながら
浴槽で薬品を洗い流せば
取まるはずだとニヤついた顔で
男が言う

快感で満足に動けない私は
這いずりながら湯船目指すが
追いつがる男の指に捕まれば
そこでまたアツサリと絶頂に達せられ
引き戻される——

指で鳴かされ——唇で泣かされ
恥も外聞もなく哀願し——
隷属契約の延長を条件に
私はようやく湯船にたどり着く
ことを許された

浴槽にたどり着いた後もひどいものだった
狭く密着した状態で尻の穴を蹴られ
秘所を思う様抉られ
弛緩して動けなくなった私を
今度は湯の中で焦らし続けた

剥がれ落ちていく己を自覚しながらも
保っていた何かがああ浴室で奪われた
気がするの私の錯覚だろうか

思い出したくもない言葉を連呼させられ
思い出したくもない誓いをいくつもさせられた
あの日以来——私の体は快感に弱くなった
感度が上がり激感に達しやすく変えられた

もう一度同じことをされたら——
そしてそれに慣れさせられたら——
考えれば考えるほど——
だから私はあの浴室が
たまらなく恐ろしかった……

浴室が駄目なら
明日以降の君が後悔しないように
今日の君が頑張らねば

よくも
そんなセリフが……っ！

彼らを満足させるだけで
君になら簡単な任務だろう

あ——駄目……駄目だ——
口づけは——蕩かされるからダメエ
こんな汚らわしい男の唇なのに



駄目だ……受け入れ
受け入れてしまおうっ！
駄目——駄目……

さあ大佐……覚悟が決まったら
マスクを取って皆さんにご挨拶だ
いいかね……これを取ったらもう
後戻りは出来ないぞ……

はいいい……覚悟……
しますっ……

やめてくれ——！ 心溶けて
ドロドロになるからあ……
嫌なのに——嫌なはずなのに

なんてことだ——私の心と体が
こんなにも変えられていたなんて……





口だ—あの口を頂きたい

お……お待たせいたしました
本日皆様の空腹を満たす
セルベリア・プレスです—

オオ——！これは
想像していたものより
素晴らしい！

いかなる声で鳴くものか？

あの胸を見ろ

折れ切つてないところが
ソソリますなあ……

当会合の規定に反しないのであれば
いかなる召し上がり方をされても
けっこうです……
ど……どうぞ存分に堪能下さい

いい尻ださぞかし中も

とら



そいつはおしい……
前は飼い主の専用つてことかね

あひいっ！

今回の規定は？

早速だが私はこちらから

前の穴を使うなどのことだ
そのかわり後ろは絶品とか

なんて——汚らわしい……
まるで獣だ——こんな奴らに

まあ皆様——こは慌てずに
まずはこちらでセルベリアくんの
緊張を解してやろうじゃないか

なう——！
まさかアレ——
なんです！

たのむまって——まじってくれっ！
お願いだっ他だったらどんなことでもする！
だからこれは——この薬だけはっ！

ああああああ♡

よせやめ——イヤだっ！
お願いだ——やめ——ああああああ
こんなっ——こんなっ！

ああ♡♡♡
ああ♡♡♡
ああ♡♡♡

こちらの穴はすつかり
調教されておりますな

おおーあの大佐が
随分といやらしい顔をする

そうだいいぞー
もつとはしたくない顔で
ねつとりと舌を這わすんだ

尻のーあなあ……っ
あああつ！ 口の中あ
雄の匂いーすい……

見てみなさいあの表情
アレではまるで
発情した雌牛ですなあ

ホホッ……なんとはしたくない
アナルだーわしの指に
吸いついてきて離さんわい

精ー液つくるううう
流れ込んでーダメエ
思考ー溶けてー
体の反応が止められないっ

シンんつたまらん！
出すぞお大佐あ！
喉奥で受け止めろ！



お願いれすうーやめ……
もうずつとイツーテえりゆう！
くるうー狂って……ひまうう

よしよしじゃあ今から
このケツ穴にチンポが入りきるまで
セルベリアちゃんか
イカなかつたらお開きにしよう

はいーりきるーまでえ……
ム……リイ……もう何度もテメひてえ
そのたびいい……いい

それじゃあ今回はうまくイクかも
しれないじゃないか？
さあ諦めずに挑戦だ



耐え切るーという誓いがもつのは
最初一瞬だけーほんのすこしの
快感でもこの卑しい穴は私を一瞬で
狂い堕とす

どんなに抵抗しても無意味だとわかつたのは
一突きことにアクメを決めさせられるように
なつてからだつた

精液の匂いだけで喉がイクー
男根が引きぬかれたあとの
余韻だけで悶絶するー

あ♡

さて皆ひと回りセルベリア君のケツ穴を堪能したわけか

あ♡

嫌だ—もう…許してくれ…

あ♡

自己を保たせたままここまで開発するとは脚の手腕は流石ですな

しかし困りましたな
いれた途端に即イキでは
賭けになりませんな

それだけ大佐の体が
淫蕩だということでしょうな
しかしここまで乱れるとは
大した雌奴隷っぷりですな

おおつ乳首でもイクのか？
ひねるたびに体が跳ねるぞ

身体中が…
屈服させられている

あ♡あ♡あ♡あ♡
あ♡あ♡あ♡あ♡
あ♡あ♡あ♡あ♡

ホラホラ大佐の大好きなチンポですぞお
まだまだ皆が射したりないからねえ
おかわりならいくらでもあるよお

さあ大佐こちらを向いて
凛々しい顔が台無しですぞ

私が—

私でなくなる—



そらいくぞー
だらしないアへ顔でイケっ!

イクーっ!

全員分の精液でマーキングだ
雄の匂いで墮としてやるぞお

イクーっ

よおし大佐そろそろ
止めをさしてやる

精液でー墮ちるう

それからさらに
私は男達が一巡する
まで犯され続けた――

ご苦労だったね大佐
皆 大変満足した様子で
帰っていったよ

しかし……これはまた
随分と汚れてしまったね

こうなってはしかたない
今日は特に念入りに――

そうだ――こんなに
汚れてしまったのだから

浴室で――
磨き上げてあげようか？

だから――これは
しかたのないこと――

はい—どうか……
御存分に—



～あとがき～

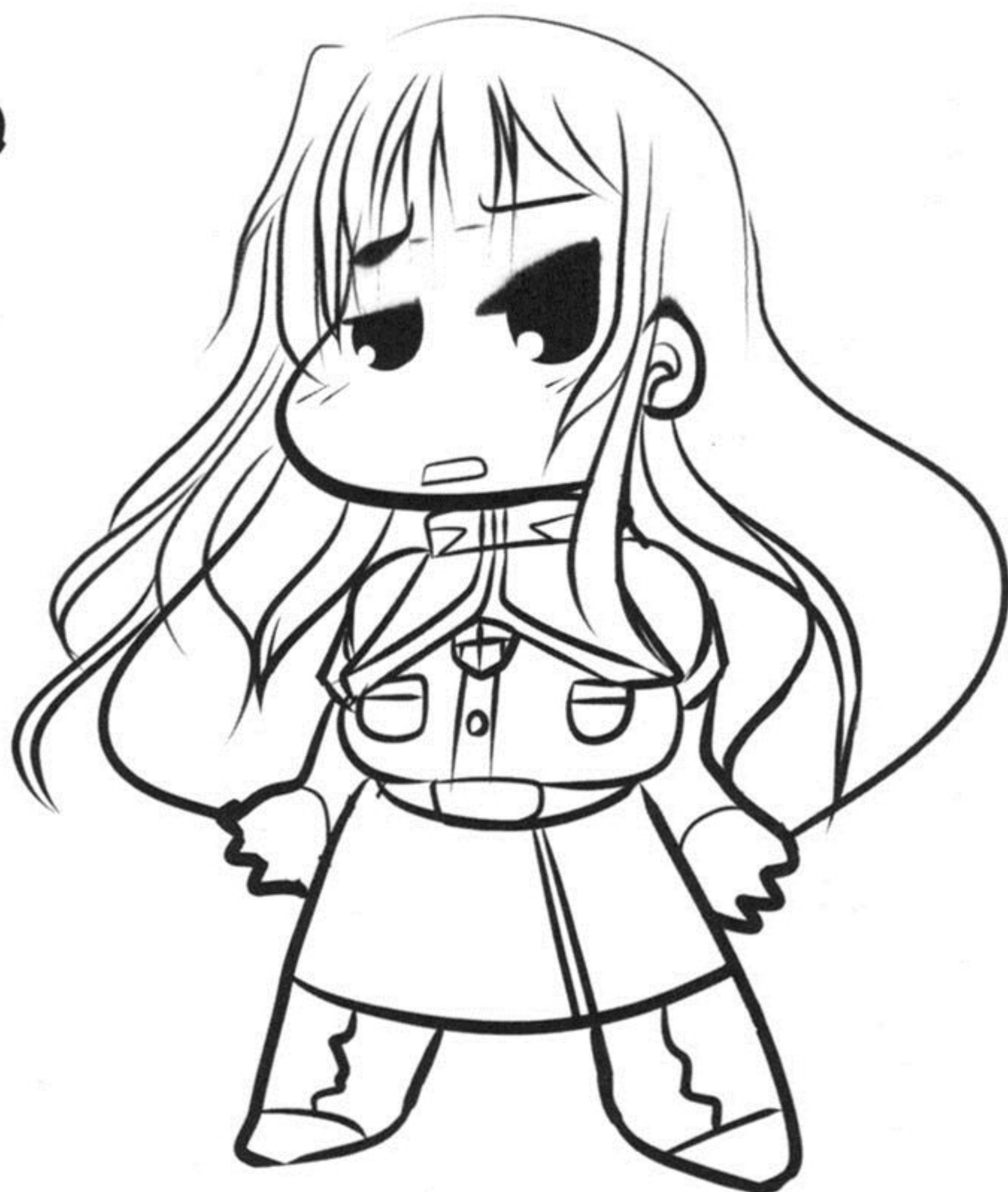
あ、どうも片耳豚です。
なんというか、三冊目です。
如何だったでしょうか？
最近は要所要所で身体にガタがきております。
皆様も虫歯とかにはお気を付けください。

個人的な性癖を暴露するようでアレなんですが、
とにかく寒衣屋は、攻めっ気のあるキャラが
受身に回った時に、なんかハッスルする感じなようですよ？

世界で一、二を争うくらい要らない情報を
皆様に開陳したところでお時間です。
なにはともあれこの本で楽しんでいただければ幸いです。
幸い極まります。よしゃー。

ああそれにしても大佐はもういるだけで可愛い。
ビーム可愛い。

PS：タイトルって迷うよね



奥付
発行 / 片耳豚
発行日 / 2011. 08. 14
印刷 / コムフレックス
連絡 / katamimibuta@yahoo. co. jp